

# 第 17 回ユネスコスクール全国大会 分科会詳細

## 第 1 分科会

カード型教材「わたしたちがつくる平和・人権・持続可能な開発」

を活用して学ぶ 2023 年ユネスコ教育勧告

### ■ 開催形式

- ハイブリッド（対面会場：上智大学 12 号館 502 号室）

### ■ 運営担当

- 永田佳之（聖心女子大学／日本国際理解教育学会）

### ■ 登壇者

- |                                 |                    |
|---------------------------------|--------------------|
| - 元東京都立大学 風巻浩                   | - 大阪公立大学 吉田敦彦      |
| - 東京福祉大学大学院 阿部裕子                | - 奈良教育大学 南雲勇多      |
| - 横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校<br>平澤香織 | - 伊豆市立修善寺東小学校 矢野淳一 |
| - 兵庫県立神戸商業高等学校 藤井三和子            | - 京都ユネスコ協会 高見啓子    |

### ■ 概要

2023 年のユネスコ総会で、今後の教育に関する「唯一のグローバル基準」とも称される「2023 年ユネスコ教育勧告」（略称）が194カ国の合意のもとに誕生した。その正式な標題にもあるとおり、いま重要なのは「平和と人権、持続可能な開発」であり、実際にこれらを次世代が学んでいくことがユネスコスクール等の最重要課題となっている。一般的に理解困難だと言われる国連勧告であるが、本分科会ではカード型教材を用いて勧告のエッセンスを具体的に体験し、〈自分ごと〉化するワークショップを開く。前知識などなくてもご参加いただけます。

## 第 2 分科会

Building Harmony Through Diversity

— あなたにとっての国際交流 —

### ■ 開催形式

- 対面（対面会場：上智大学 12 号館 402 号室）

### ■ 運営担当

- 上智大学大学院生 有志

### ■ 登壇者

- 上智大学 大学院生 3 名

### ■ 概要

Building Harmony Through Diversity—あなたにとっての国際交流—は、多様性やアイデンティティ、異文化理解をテーマにした生徒向けの体験型プログラムである。発表やディスカッションを通して、文化を国旗や食べ物、祭りといった表面的なものではなく人々の価値観や習慣、人々の考え方を形づくる背景として捉え、言語や文化の違いを超えて他者を理解し、自分自身の文化的な特性にも気づく機会を提供する。多様な社会における「調和」

とは何かを探り、共感と尊重をもってつながる力を育むことを目的としている。この学びを通して、異なる価値観を持つ人々が共に生きる社会の在り方を考えるきっかけとする。

### 第3分科会

### 未来をつくる国際交流

#### — 日本発・平和と国際交流の新しいカタチ —

- 開催形式

- ハイブリッド（対面会場：上智大学 12号館 401号室）

- 運営担当

- ユネスコスクール教員 有志

- 登壇者

- 広島県福山市立福山中・高等学校
- 愛知県名古屋国際中学校・高等学校

- 上山晋平
- 黒宮祥男

- 東京都板橋区立緑小学校 市之瀬輝明

- 兵庫県立舞子高等学校 垣井宏泰

- 概要

第3分科会「未来をつくる国際交流-日本発・平和と国際交流の新しいカタチ-」では、ユネスコスクールにおける国際理解・平和・協働に関する実践を通じて、教育活動を発展させるアイデアとネットワークを創出し、日本発の国際交流教育モデルを構想する。前半は国際交流と平和教育の最新動向を共有したのち、小・中・高の3校による実践報告を行い、現場のリアルな取組を基に参加者が互いに学び合う。後半はワークショップ形式で、自校ができる国際交流の第一歩を構想し、日本から世界へ発信できる新しい教育モデルを創出することを目的とする。本分科会は、参加者がそれぞれの知見を持ち寄り、国際理解教育を深化させる場とする。

### 第4分科会

### 地域のリソースを活用したユネスコスクールの教育活動と ASPUnivNet の支援

- 開催形式

- ハイブリッド（対面会場：上智大学 12号館 202号室）

- 運営担当

- ユネスコスクール支援大学間ネットワーク（ASPUnivNet）

- 登壇者

- 福岡教育大学 石丸哲史

- 奈良教育大学附属中学校 有馬一彦

- 琉球大学 大島順子

- 高知県立室戸高校 大和田彩

- 信州大学 水谷瑞希

- 概要

ユネスコスクールでは、ユネスコの理念を実現するための取組や ESD の実践などさまざまな活動が見られ、各学校の特徴がそこに反映されている。とりわけ地域の「ひと・こと・もの」などのリソースを活用した個性ある活動が各学校で展開されており、この事例を共有することはユネスコスクールの諸活動の充実を図る上で有意義である。また、この

充実に向けては、専門的知見を提供できる ASPUnivNet の役割は大きいといえる。そこで、本分科会では、エコパークやジオパーク、文化財などのリソースを効果的に活用した学校の取組を紹介し、ASPUvNet 各大学がこの活動にどう支援していくか協議していく。

## 第 5 分科会

## AI 時代における ESD の可能性

### — ESD 大賞受賞校と大学の実践をとおして — (分科会・第 16 回 ESD 大賞授賞式)

#### ■ 開催形式

- ハイブリッド（対面会場：上智大学 12 号館 201 号室）

#### ■ 運営担当

- NPO 法人日本持続発展教育（ESD）推進フォーラム

#### ■ 登壇者

- |                         |                      |
|-------------------------|----------------------|
| - 湘南学園 住田昌治             | - 川崎市立平間小学校 武富布美     |
| - NPO 法人日本持続発展教育推進フォーラム | - 鹿児島県立市来農芸高等学校 横山由晃 |
| 岡山慶子                    | - 東京工科大学 片柳研究所長 赤津隆  |

#### ■ 概要

AI 技術の進展は、教育の在り方に新たな可能性をもたらしている。ESD（持続可能な開発のための教育）においても、AI や ICT を活用した探究的な学びや協働の形が広がりつつある。本分科会では、AI 教育の実践を進める東京工科大学と 2024 年度 ESD 大賞受賞校が登壇し、ICT を活用した教育実践の工夫や課題を共有しながら、現場の視点から AI 時代における ESD の姿を探る。分科会の後半では、第 16 回 ESD 大賞授賞式を開催し、今年度の ESD の優れた取組を表彰する。